

株式会社トータル・メディカルサービス

2010年5月21日

市場	JASDAQ / 福岡証券取引所	業績 (百万円)	2008/3	2009/3	2010/3 (4Q)
上場承認日	2010/5/21	売上高	5,137	5,818	6,245
上場予定日	2010/6/24	営業利益	287	490	457
主幹事証券	大和証券 CM	経常利益	296	479	461
監査法人	有限責任監査法人トーマツ	当期利益	156	218	233
URL	http://www.tms-inc.co.jp/	総資産	3,061	3,356	3,498
証券コード	3163	純資産	783	1,094	1,319

● 事業内容 (特に記載しない限り、数値は2009/3期)

- ・同社は「地域医療の一翼を担う企業を目指す」という企業理念のもと、①調剤薬局事業、②その他事業を行っている。①調剤薬局事業では、福岡を中心に病院や診療所に近接した調剤薬局「さくら薬局」を29店舗(2010/4時点)展開している。②その他事業は、健康食品事業(健康食品の販売)とメディカルサポート事業(病院内売店の運営などのアウトソース)等である。構成比は、①が53.4億円(91.9%)と大半を占める。ただし、②は対前年比597%と大幅に成長している。これは、2008/3に100%子会社化(その後2008/5に合併)した(有)デュークが寄与したものである。同社では、調剤薬局事業依存からの脱却をめざしており、②を成長分野と位置づけているものと想定される。
- ・①調剤薬局事業では、売上は店舗数にある程度比例するものと想定される。しかし、期末時点における店舗数は、2006/3期以降で26→27→28→29→29と、意外と緩やかな伸びである。一方で、単純に店舗平均売上を算出すると、1.51億→1.51億→1.80億→1.84億→1.99億と継続的に増加傾向にある。増加の明確な理由は不明だが、同社は自社店舗近辺への医療機関の誘致なども行っているようであり、これらの施策が結実したのであるか。なお、現時点で3店舗の資金出店を計画しており、当該部分の売上増加は見込めそうである。
- ・リスク情報にも記載があるが、調剤薬局事業は業績が薬価や保険点数に大きく影響される。薬価は全体として引き下げ傾向にあり、今後もその動向には留意が必要である。また、一般用医薬品がコンビニやドラッグストアで販売できるようになるなど、規制緩和により異業種との競争が激化する傾向にあり、その点も同様に留意が必要。

● 財務諸表より (特に記載しない限り、数値は2009/3期)

- ・総資産は33.5億円。主な内訳は、現預金5.2億円、営業債権7.7億円、在庫1.7億円、有形固定資産10.1億円、のれん2.5億円など。債権は大半が健保に対するものであり、基本的に貸倒リスクはないと想定される。回収サイトは、患者から現金徴収する自己負担分30%を考慮すると2.2ヶ月程度になる。一方で、在庫のサイトは0.4ヶ月分と非常に少ない。使用した分だけ仕入扱いとする消化仕入取引を導入している可能性があるが詳細は不明。のれんは(有)デュークの合併により生じたものである。償却は5年で行っているため、2013/3期までは0.6億円程度の償却負担が生じる見込み。
- ・負債は22.6億円。主に営業債務8.5億円、有利子負債9.5億円、未払税金1.9億円など。買掛金の相手先を見ると、卸業者と医薬品メーカーの双方から仕入を行っているようである。仕入は上位4社との取引で全体の88.0%を占めており、これら仕入業者との関係が重要となる。なお、薬価が改定された場合、仕入業者との取引価格交渉は長期間に及ぶのが通例であり、取引価格が決まらないうちに納品された仕入については、見込価格での処理を行わざると得ないとのこと。見込価格と確定額との差額は、取引価格決定後にまとめて行われるため、当該四半期の損益が大きく変動する可能性がある。
- ・利益構造としては、粗利率が低く、調剤薬局事業で12.4%となっている。ただし、原価には薬局における人件費や経費も含まれている。純粋に医薬品の仕入原価だけで見ると、原価率は62.5%程度。販管費項目として突出したものはないが、2008/3の特別損失に減損損失が計上されている。これは不採算店舗に関するものであるが、今後も減損リスクはついて回るので注意が必要。

● その他 (リスク情報、株式公開情報等より)

- ・同社はJASDAQ市場への上場を予定しているが、同時に福岡証券取引所にも上場する予定である。
- ・株式数増加のために、1:200の株式分割を行っているが、実施されたのは2009/12と申請期末近くになってからである。一般的に分割は直前期までに行われることが多いと思われるが、IPOの見通しが不明であったためギリギリまで分割を見送っていたということであろうか。
- ・非常勤監査役に、福岡県庁職員OBが入っている。行政との折衝の多い業界のためと思われるが(天下りではないと思うが)、検察・警察以外の公務員OBは珍しい。
- ・特別情報に、同社が社長の弟から営業車(中古車)を購入したという記載がある(2006/3期)。オーナー取引の整理の一環で、個人へ会社資産を売却することはよくあるが、逆に個人から買い取るケースは珍しい。
- ・直前期末近くの2009/3に第三者割当増資を行い、取引先・金融機関・役員などに割り当てている。割当価格の決定に際しては、純資産方式と類似会社比準方式の結果を勘案したとされているが、直前期末近くの増資で、純資産方式を勘案しているところが特徴的である。
- ・株主は全部で13名と少ない。また新株予約権などの希薄化株式が一切ない。社長の持分は78.82%と高く、IPO後も56.5%と過半数を維持する見込み。なお、第2位株主は、従業員持株会であり、IPO後で8.3%程度。

© (株)アカウンティング・アシスト (無断転載禁止) URL: www.accounting-assist.com E-mail: info@accounting-assist.com

※ご留意事項

本書は証券取引所のサイトにアップされた「上場申請のための有価証券報告書(Iの部)」など、一般的に公表された情報を基に、新規上場予定企業の概要をお伝えすることを目的として作成しております。内容の一部作成者の私見が含まれることがありますが、投資行動への指図や投資勧誘を目的としたものではありません。また本書の作成誤り・事実認識等により利用者に経済的損害が生じた場合も、これを補填する義務は一切存在しませんので、予めご了承ください。